

渭北地区 地震・津波避難支援マップ（東部）

平成25年11月

鍵保管庫がある津波避難ビル



地震・津波避難支援マップの説明

■マップの活用方法
このマップ（地図）は巨大地震に伴って発生する津波に対して、「こんな時はここを通過してここに避難しよう」と避難経路や避難場所を考えるために必要な情報をまとめたものです。避難マニュアル（指示書）ではありません。常日頃から見て、家庭や職場の避難マップ作りなどにお役立て下さい。

□津波避難ビルと一時避難場所
津波避難ビルは徳島市が指定したもののうち3階建以上、一時避難場所は渭北コミュニティ協議会が独自に協力を取り付けたものを表示しています。いずれも津波から命を守るための一時待機場所で、階段や廊下など共有スペースを避難に使用します。ただし建物によっては避難スペースが限定されています。学校等一部を除いて食料・毛布等の備蓄はありません。避難先名称の(数字)は建物避難スペースの収容人数ですが今後見直される場合があります。
津波避難ビルの中には夜間・休日等は施錠される建物があります。そのような建物には鍵ボックスがつけられています。震度5強以上の揺れが感知されるとボックスの扉が開いて建物出入口の鍵を取り出せます。鍵ボックスの位置は、『鍵保管庫がある津波避難ビル』の写真を参照して下さい。
昼間の学校は生徒が大勢いるために外部からの避難者受け入れが難しい場合があります。一時避難場所の中には利用可能時間に制限がある場所があります。建物名称下の「L」内が利用可能時間帯です。
なお諸事情でマップに載せていない避難場所もあります。町内会・自主防災会にお問い合わせ下さい。

□避難路と避難方向
避難路は比較的幅が広く閉塞の可能性が低いものを灰色、道幅が狭く、両側に高い建物や塀があって、特に閉塞の危険性が高いと思われるものを朱色、それ以外をオレンジ色で示しています。
地震後は近くの津波避難ビルや一時避難場所に素早く避難することが鉄則ですが、避難場所が少ない地域もあります。そのような地域を中心に避難方向を矢印で示してあります。また広い敷地を有する小中学校・大学や入口が分かりにくい建物への進入路も矢印で示しています。
このマップを参考に避難場所まで実際に歩いて、経路上の危険箇所、建物入口等を確認することをお勧めします。

□地盤の液状化現象と避難
巨大地震が発生すると広い範囲で地盤の液状化現象が起ると予想されています。砂や水が噴き出したりしますが、その状態は長く続くものではなく、現象が終わった後は歩行できないわけではありません。ただしアスファルト舗装道路は直下の地盤が緩んで陥没したり、変形したりする恐れがあります。また地中に埋設されている下水管やマンホール等が浮き上がる可能性もあり、避難の大きな妨げになると予想されています。
避難を阻害する要因には、家屋やブロック塀の倒壊、屋根瓦等の落下による道路閉塞のほか、負傷者、高齢者、幼児の介助などもあり、避難は通常速度（70m/分程度）の半分以下になると言われています。

□地盤標高と津波の高さ
この地図に示した地盤標高は東京湾平均海面（T.P.）の高さを基準とした海拔です。
徳島県が公表する津波高さの予測値はT.P.上の高さで計算していますが、朔望平均満潮位+0.876m（徳島・小松島）を加えた水位を基準に計算しています。ただし夏場には+0.876mよりも0.3mほど高くなる時期があります。また低気圧が接近すれば更に上昇しますので注意が必要です。
地震による地盤沈下も忘れてはいけません。津波の高さだけに気を取られずに津波に備えることが肝要です。

※朔望平均満潮位：新月および満月の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値のこと
製作：渭北コミュニティ協議会/徳島大学環境防災研究センター/徳島市（お問合せ先：渭北コミュニティセンター088-652-7476）



「この地図は、徳島市長の承認を得て、1/25000地形図を複製したものである。（承認番号 徳島市指令都政第170号）」

主な記号の説明

- 津波避難ビル 鍵保管庫
- 一時避難場所 (利用可能日時)
- 寺社公園
- 道路と避難方向
灰色: 広い道路
黄色: やや狭い道路
朱色: 狭小な道路や両側にブロック塀等がある道路
- 避難時に注意を要する箇所
- 防災倉庫
- 地盤標高(海拔) 単位:メートル
3.4



地震・津波避難支援マップの説明

■マップの活用方法

このマップ（地図）は巨大地震に伴って発生する津波に対して、「こんな時はここを通過してここに避難しよう」と避難経路や避難場所を考へるために必要な情報をまとめたものです。避難マニュアル（指示書）ではありません。常日頃から見て、家庭や職場の避難マップ作りなどにお役立て下さい。

□津波避難ビルと一時避難場所

津波避難ビルは徳島市が指定したもののうち3階建以上、一時避難場所は渭北コミュニティ協議会が独自に協力を取り付けたものを表示しています。いずれも津波から命を守るための一時待機場所です。階段や廊下など共有スペースを避難に使用します。ただし建物によっては避難スペースが限定されています。学校等一部の施設を除き、食料・毛布等の備蓄はありません。避難先名称の(数字)は建物避難スペースの収容人数ですが今後見直されることがあります。

津波避難ビルの中には夜間・休日等は施設される建物があります。そのような建物には鍵ボックスがつけられています。震度5強以上の揺れが感知されるとボックスの扉が開いて建物出入口の鍵を取り出せます。鍵ボックスの位置は、『鍵保管庫がある津波避難ビル』の写真を参照して下さい。

昼間の学校は生徒が大勢いるために外部からの避難者受け入れが難しい場合があります。一時避難場所の中には利用可能時間に制限がある場所があります。建物名称下の「J」内が利用可能時間帯です。

なお諸事情でマップに載せていない避難場所もあります。町内会・自主防災会にお問い合わせ下さい。

□避難路と避難方向

避難路は比較的幅が広く閉塞の可能性が低いものを灰色、道幅が狭く、両側に高い建物や塀があって、特に閉塞の危険性が高いと思われるものを朱色、それ以外をオレンジ色で示しています。

地震後は近くの津波避難ビルや一時避難場所に素早く避難することが鉄則ですが、避難場所が少ない地域もあります。そのような地域を中心に避難方向を矢印で示してあります。また広い敷地を有する小中学校・大学や入口が分りにくい建物への進入路も矢印で示しています。

このマップを参考に避難場所まで実際に歩いて、経路上の危険箇所、建物入口等を確認することをお勧めします。

□地盤の液状化現象と避難

巨大地震が発生すると広い範囲で地盤の液状化現象が起こると予想されています。砂や水が噴き出したりしますが、その状態は長く続くものではなく、現象が終わった後は歩行できないわけではありません。ただしアスファルト舗装道路は直下の地盤が緩んで陥没したり、変形したりする恐れがあります。また地中に埋設されている下水管やマンホール等が浮き上がる可能性もあり、避難の大きな妨げになると予想されています。

避難を阻害する要因には、家屋やブロック塀の倒壊、屋根瓦等の落下による道路閉塞のほか、負傷者、高齢者、幼児の介助などもあり、避難は通常速度（70m/分程度）の半分以下になると言われています。

□地盤標高と津波の高さ

この地図に示した地盤標高は東京湾平均海面（T.P.）の高さを基準とした海拔です。

徳島県が公表する津波高さの予測値はT.P.上の高さで計算していますが、朔望平均満潮位+0.876m（徳島・小松島）を加えた水位を基準に計算しています。ただし夏場には+0.876mよりも0.3mほど高くなる時期があります。また低気圧が接近すれば更に上昇しますので注意が必要です。

地震による地盤沈下も忘れてはいけません。津波の高さだけに気を取られずに津波に備えることが肝要です。

※朔望平均満潮位：新月および満月の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値のこと